

Nダッターに関する一考察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007669

N ダツタリに関する一考察

熊井浩子

【要旨】

本稿では「例示」を表すタリの用法を、名詞を用いたNダツタリを中心に、実際の用例にあたったうえで考察した。その結果、Nダツタリを1度だけ用いてその後にそれをまとめる内容が続く場合や、「グループ分け」、本来はややトカを用いるべき、1つの事態を表す場合など、ダツタリ本来の用法とは異なる用法が多数観察された。また、どのような場合にNダツタリのような形でシタを伴わずに用いられるのかや、ある種の話し言葉やブログなどでこの形が多用される動機についても検討した。最後に、ダツタリが「ぼかし」や「冗談」の意味を表す理由についても考察した。

【キーワード】ダツタリ、例示、ぼかし、冗談、対人的配慮

1. はじめに

名詞の並列には (1) のようにNやや (2) のようにNトカが用いられる。さらに、(3) のようなNダツタリという表現もある。

- (1) 机の上には皿や紙コップなどが置いてあった。(日本語文型辞典^{注1}。下線筆者)
- (2) 日本から外国へのお土産としては、カメラとか電気製品がいいでしょう。(同上)
- (3) 彼女の絵のモチーフは鳥だったり人だったりするが一貫して現代人の不安が描かれている。(同上)

日本語文型辞典では、NやN(ナド)は、ものをならべたてるのに用い、表されている名詞以外にも何かあるという含みがあると述べられている。また、Nトカは、人や物に付いて、同じような例をいくつか挙げる場合に用いる、話し言葉的な表現であるとする。

さらに、タリについては、いくつかの事柄、行為のうちの代表的なものを2、3挙げる表現であると説明されている。いずれも表されていることがら以外にもほかの何かがあることを含意する点で共通である。しかし、これらが常に互換可能というわけではない。

また近年、若者を中心に (4) のようなダツタリの用法が広がっていて、それを不快な表現とする指摘も多い。

- (4) ?その店にはくき茶だったり、バター茶だったり、いろいろなお茶がある。*^{注2}

そこで本稿では、実際の用例にあたったうえで、ダツタリの用法について考察する。なお本稿では、「行ったり」「きれいだったり」「学生だったり」のように、先立つ品詞にかか

ならず、並列を表すタリ全般をタリ、そのうち、名詞やナ形容詞の場合に用いられるダツタリ全般をダツタリ、そのうち特に、名詞+ダツタリをNダツタリで表すことにする。

2. タリの用法

本稿で主に扱うのは名詞を用いたNダツタリであるが、これは後述するように、状態を表すダツタリの場合にのみ顕在化する機能があり、それ故NヤやNトカなどとは異なった制約を持っていることによる。ここで、Nダツタリの考察に先立ち、まずタリ全般の用法を概観する。

日比(2009)は、森田(1989)・(2007)、寺村(1991)、森山(1995)・(1997)の論考をまとめる形で以下の6つの分類を示し、それぞれに対し、(5)から(10)の例文を挙げている。

表1 日比(2009)

用例名	形式	意味・特徴
例示	<ul style="list-style-type: none"> • ~たり~たりする • ~たりする • ~たり~たり、… 	<ul style="list-style-type: none"> • 「たり」の基本的用法 • ある設定された状況からいくつかの具体的事態を例として取り上げる。 • 他にもあることが暗示される。
不定	<ul style="list-style-type: none"> • ~たり~たりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 大きくは例示の一用法 • ある一つの事態が時空間によって様々に異なることを表す。
繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> • ~たり~たりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 対称的な動作が繰り返されることを表す。
暗示	<ul style="list-style-type: none"> • ~たりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 同類の事態を暗示する。
ぼかし	<ul style="list-style-type: none"> • ~たりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 明言を避ける。
冗談	<ul style="list-style-type: none"> • ~たりして 	<ul style="list-style-type: none"> • 極端な事態を取り上げて冗談の意を表す。

【例示】

(5) 日曜日は、掃除をしたり、買い物に行ったりして1日が過ぎました。(例文は日比。下線は筆者)

【不定】

(6) 大学にはバスで来たり、モノレールで来たりする。(同上)

【繰り返し】

(7) 今日は朝から雨が降ったりやんだりしています。(同上)

【暗示】

(8) しかし、ちょっと成績がいい程度のことでは舞い上がったりしない。(同上)

【ぼかし】

(9) 好きなお笑い芸人さんとかいちゃったりしますか。(同上)

【冗談】

(10) 実は凶星だったりして。(同上)

「例示」は、~タリ~タリスルの形で例を二つ以上挙げ、取り上げられたものだけでな

く、ほかにもあるということを示唆する用法であるとされるが、(11)のように例が一つだけである場合や、～タリ、～タリのように、最後のタリにスルがつかないものなどもある。本稿で扱う N ダッタリがこの文型での言い切りで使われると、(12) a・bのように、ダッタリスルやダッタリダ/デアルのような形になる。また、このスルやデアルが省略されて、(12) cのようにダッタリで終わることもある。

(11) 昔はすぐカビが生えたりするので、落語を聴く人にも腐敗物の実感があつた。(例文は日比。下線は筆者)

- (12) a. ストレッチの回数は、体調によって10回だつたり、20回だつたりする。
 b. ストレッチの回数は、体調によって10回だつたり、20回だつたりだ/である。
 c. ストレッチの回数は、体調によって10回だつたり、20回だつたり。

なお、最後のタリにスルがつかない文の特徴として、日比では、(13)のように、いくつかの例を挙げた後、それをまとめる内容が続く場合、二つ目以降の例がタリではなく、モを使って表現されている場合、(14)のように、二つ目以降の文が長い場合などが挙げられているが、文法性の判断が分かれるものの、(15)のように、二つの例が近接している場合でもスルが脱落する例も見られると述べられている。

(13) 高レベルの競演の一方、衣装替えに手間取つたり道具に凝りすぎたり、意味不明のパフォーマンスも。(例文は日比。下線は筆者)

(14) やる気をできるだけ保って、逆に外国にいっそう興味をもつたり、すごく強い動機をもつことによって、炎を大きくしたら効率よく勉強できるはずです。(同上)

(15) 才能のように思われるものが、じつは習慣だつたり、性格的なことだからです。(同上)

「不定」は状態が一定していないことを述べるものであり、いろいろあることを表している点では「例示」の用法であると言えるが、「例示」が一つの時空間の中で様々な事態が生じうることを示しているのに対し、この用法は様々な事態が時空間によって様々な異なることを示すという違いがあるとされる。

また、「繰り返し」は挙げられた例が対義関係にある場合で、反復、即ち同じ状態や事態の繰り返しを表す。例えば(16)は、挙げられた例が「男子学生」と「女子学生」という対義関係にある。これについて木下(2006)は、タリスルは時や条件(この場合は「曜日」)によって異なる要素が並列されるべきものとして存在することを表すが、「男子学生」と「女子学生」とは対義関係にあり、例示された以外の要素の想定が不可能であるため、そこで示された対義関係にある例(男子と女子)が条件(曜日)によって異なる要素として並列され、反復、即ち、同じ状態や事態の繰り返しを表すことになるのであると説明している。

- (16) アルバイトで来ている学生は曜日によって男子学生だったり女子学生だったりしますが、みんなよく働いてくれます。(例文は日本語文型辞典。下線は筆者)

そして木下 (2006) は、タリの中で状態を表す場合にのみ顕在化する機能として、例示された事柄のどれが実現するかが時や条件によって異なることを表すことを指摘し、「タリスル:時や条件によって異なる要素が並列されるべきものとして存在することを表す。」とまとめている。この点がNヤやNトカとの大きな違いの一つである。それ故、「～によって」「～次第で」のような、場合によって異なるという意味を表す表現とともに用いるとわかりやすい。(17)も、(17')のように「作品によって」のような表現を加えると意味がいつそうはっきりしてくる。

- (17) 彼女の絵のモチーフは鳥だったり人だったりするが、一貫して現代人の不安が描かれている。(例文は日本語文型辞典。下線は筆者)

- (17')彼女の絵のモチーフは作品によって鳥だったり人だったりスルが、一貫して現代人の不安が描かれている。(例文は木下。表記も木下のまま。下線は筆者)

- (18) ?その店にはくき茶だったり、バター茶だったり、いろいろなお茶がある。*
(再掲)

- (18')その店には季節によってくき茶だったり、バター茶だったり、いろいろなお茶がある。

このような状態性のダッタリの特徴を考えると、Nダッタリは本来は1つの事態ではなく、時や場合によって異なる場合の例示を表すわけであるから、「例示」と「不定」の差は解消されることになる。このような本来の用法からすると、状態性のタリのうち、(18)のような時や条件によって異なる要素でない場合には不自然な表現であると受け取られる可能性がある。一方(18')は「季節によって」という表現が加わって、この条件に当てはまっているため、自然な表現となる。しかし実際の用例では(18)のように、必ずしもこの状況によって異なるという本来の用法でない例も多く見られる点は前述のとおりである。この点については後で詳しく触れることにする。

「暗示」は森山(1995)がタリが持つ列挙的な意味をもとにしつつ、同類的なグループから一つの例を出すという暗示的な表現方法をとることで、その類的意味を取り上げることになることと分析しているものである。森山によれば、例えば(19)は、「どなった」という一つの特定时空の事態から、全体的な状況の在り方が関連づけられ、「悪い父親だ」という一般的性質付け(評価)が導き出されることになる。

- (19) さっきは、しんのすけにどなったりして、悪い父親だ。(例文は森山。下線は筆者)

また、「ぼかし」について森山は、今後の興味深い課題であるとし、詳細は論じていない。一方日比(2009)は、(20)のような例を挙げ、この場合は、質問内容に自信がなく、肯定的な返事が返ってこないかもしれないというような気持ちから明言を避けているのだと説

明している。また木下(2006)も、(21)のように聞き手が非常に可能性が低いと考えている、聞き手の想定外の事態について述べるという文脈の中での可能性、即ち時空を超えた仮定世界について述べるタリスルの用法を指摘している。これらのタリはナドでは不自然となる。しかし、なぜ本来並列を表すタリが「ぼかし」として用いられるのかについては木下では説明されていない。この点の考察も必要である。

(20) 好きなお笑い芸人さんとかいちゃったりしますか。(再掲)

(20') ??好きなお笑い芸人さんとかいちゃうなどしますか。

(21) A: このごろ雨が多いね。明日は嫌いな体育のある日だから明日も雨が降るとい
いなあ。

B: そういうふうに思うときに限って(晴れタリスル/??晴れるナドする)んだ
よ。(例文は木下。表記も木下のまま。下線は筆者)

さらに、「冗談」の用法について森山(1995, 1997)は、(22)の例を挙げ、極端な異常事態を例示・想定し、事態を部分的な例示として取り上げるところに、「冗談」としての意味が生ずる余地ができるのであると述べている。この点については木下も、タリシテは、(23)のように、話し手自身、可能性が非常に低いと考えている事柄についてあえて可能性が存在すると述べるところから「揶揄する」ニュアンスが出ると説明している。

(22) うどんにマヨネーズかけたりして。(例文は森山。下線は筆者)

(23) A: 彼女、さそっても来ないわよね。

B: 意外に来タリシテ。(例文は木下。表記も木下のまま。下線は筆者)

ただし、タリシテにも、話し手自身がその可能性があると感じている事態について冗談めかして表現することで断定を避ける用法もあると思われる。そういう意味では、「ぼかし」と「冗談」は連続性を持っていると言えるであろう。

このように、「例示」を基本的な用法としながら、そこから「不定」や「繰り返し」・「暗示」、さらには「ぼかし」や「冗談」の機能が派生的に生じたと考えられるが、本稿では、このような分類を踏まえ、実際の用例の中でどのようにダツタリが用いられているのか、特に「ぼかし」「冗談」などのような「例示」から派生する用法についてはまだ曖昧なところがあるので、この点を考察していくことにする。

3. Nダツタリの用例

3. 1. 文中で用いられるNダツタリ

ダツタリの基本的な機能は「例示」であるが、繰り返し述べているように単なる「例示」ではなく、時や条件によって異なる要素が並列されるべきものとして存在することを表すというのがその本来の用法である。例えば、(24)は、なかなか行けなかった理由として、あるときは「定休日」、また別の時は「満席」というような例が挙げられており、時によって異なることを表している。

- (24) 定休日だったり満席だったり…、すごく行ってみたいのになかなか行けなかった
『5』さんにやっと思行けました。*

しかし、実際の用例を見ると、この本来の用法からずれた使い方が多く観察される。(25)では日本が「遅れをとっている」国の例が4つ挙げられているが、その最初の例としてNダツタリが用いられている。時や状況による違いを問題にしているわけではないので、(25')のようにNヤやNトカを用いるのが通常の形であると思われる。(26)も、前回のレースでどんな収穫があったかという質問に対する答えであるが、これも1つの事態の中での例示であるから、(26')のように、NヤやNトカを用いるのが本来の使い方である。

- (25) もちろん短期的なプランも必要だと思うんですけど、まだまだイタリアだったり、中国・韓国、えー、フランスに遅れを取っていることはまぎれもない事実なので(中略)まだまだやらなければならないことはたくさんあると思います。(フェンシング選手インタビュー)
- (25') (前略) まだまだイタリアや／とか、中国・韓国、えー、フランスに遅れを取っていることはまぎれもない事実なので(後略)。
- (26) (収穫は何かと聞かれ) そうですね、そういうレース区間の雰囲気であったり、駅伝のレースの作り方であったり、まあレース展開等(の収穫が)あったんで。(駅伝選手インタビュー)
- (26') そうですね、そういうレース区間の雰囲気や／とか、駅伝のレースの作り方や／とか、まあレース展開等(の収穫が)あったんで。

さらに、1番目の例をNダツタリで表し、次の例はダツタリやヤ、トカなどを付けずに名詞だけ用いる例も実際の使用例で観察された。このような用法は文法性の判断は分かれるもののダツタリスルにならない例として日比(2009)にも指摘されている2つの例が近接している場合である。(27)も「奨学金」と「授業料免除」という例が挙げられている。「例示」の用法であるが、これも場面によって異なることを伝えているわけではないので、ダツタリ本来の用法とは異なっている。ただし、筆者が調べた範囲ではインターネットなどではこの用例は見当たらなかったため、これがどれだけ一般的な用法であるのかは現時点では判断できない。これも、本来であればトカやヤが用いられる場面である。

- (27) 奨学金だったり、授業料免除の情報を伝える必要があると思います。
(27') 奨学金や／とか、授業料免除の情報を伝える必要があると思います。

では、本来NヤやNトカが用いられるべき単なる例示にNダツタリが用いられるのはどうしてであろうか。この用法は話し言葉・書き言葉ともに見られるが、話し言葉の場合には、普通の会話というよりはインタビューや記者会見、討論や会議の発言など、やや改まった場面で、その場でいろいろ考えながら話す場合に多く観察される。例えば本稿でも多くの用例をスポーツ選手のインタビューや会見から採取している。そのようなやや改まった

場面でこのダツタリが多用される理由は、1つにはNヤはやや堅すぎる印象、Nトカはくだけすぎた印象があり、その中間としてNダツタリが適度な改まり感を感じさせる表現と受け止められているのではないかと思われる。また、Nヤだと、複数の例を挙げる必要があるが、NダツタリはNが1つだけでも用いることができることもNダツタリが好まれる理由の一つであろう。森山(1995)では、「とか」は適切な表現のために頭に思いついたものを適宜挙げていく用法として口語表現で多用されると述べているが、ある種の発話では、むしろダツタリがその役割を担っていると言えるであろう。

ダツタリスルにならない場合に話を戻すと、日比の指摘する例の他には、(28)(29)のように、助詞や助詞相当表現を伴っている場合と(30)のように、ダツタリトのように、トを伴って次に述べることの例や様子を具体的に示す場合などが見られた。他の要素との関係が曖昧な場合もあり、Nダツタリとその後の文との関係は、かなり緩やかであることがわかる。さらに、Nヤなど、他の並列表現と併用されている例や、Nダツタリトカと、ダツタリとトカを重ねて用いる場合もあった。

- (28) 積みゲーだったり、フレとの対戦だたりをだらだら垂れ流します。*
- (29) 異性にフラれて人格だたり性格だたりが変わってしまうことって、あるんでしょうか*
- (30) 内山命ちゃん表情や髪型によって美少女だたりイケメンだたりとなんだか見ていて楽しいなと思える子です*

また日比は、ダツタリスルにならない例として、いくつかの例を挙げた後、それをまとめる内容が続く場合などが挙げられている。これらはNダツタリが修飾句・節として用いられる場合であるが、例えば(31)は「ディフェンス」がそれに先立つ2つのNダツタリをまとめている部分である。また、(32)はNヤとNダツタリが混ざって使われている例であるが、「たくさんの」と言った後で、その例がダツタリを含む形で述べられ、また「たくさん」で挙げられた例をまとめる形になっている。(33)のようにNダツタリが続いたあと、「そういうもの」のようなまとめの表現が用いられる例もあった。

- (31) 鋭いパスだたり、センタリングだたり、ディフェンスに貢献していきたいです。(サッカー選手インタビュー)
- (32) それもほんとにメールでたくさんの、地元の友達や山梨にいる大学の水泳部のみんなであたり、家族だたり、たくさんほんとにメッセージをいただいて(後略)(水泳選手インタビュー)
- (33) 駅伝を経験できた、特に下級生がね、駅伝に向かって行くその緊張感だたり、当日の緊張感だたり、あるいはレースの流れだたり、そういうものが勉強できたのが大きかったかな(駅伝監督インタビュー)

このような複数のダツタリの後にまとめの表現が来る用法は、(34)から(38)のように、インターネットのブログ等の書き言葉でも観察された。(37)のように、ダツタリで一応文

が終わり、次の文に「そんな N」というまとめの表現が来る場合や (38) のように N トイッ
タ N という形でまとめる例も見られた。

- (34) 今まで、Evernote だったりメモ帳だったり、極めてクローズドな環境で行なっ
ていた情報収集。 *
- (35) 魚類だったり狼だったり人ではない何か *
- (36) NEW ネイルだったり、私服だったり、いろいろ *
- (37) 私が今までお世話になった人たち、たとえば不動産屋さんだったり、近所の方だっ
たり。そんな偶然でつながった人たちの事やその方のお話など、今まで出会った方
たちの全てが創作につながっています。 *
- (38) ほとんどの場合、鼻水、鼻炎からの頭痛、いがらっぽい喉など、単なる風邪の症
状であれば、運動するのは適切だ。ただ、激しい咳だったり、体の痛み、悪寒や
下痢といったインフルエンザのような症状であれば、運動を避けるのが最善だと、
米イリノイ州メイウッズの保健衛生システムのプライマリーケア医長、キース・
ベセリック氏は話す。

一方ダッタースルにならないもう1つの例として、日比の指摘しているいくつかの例を
挙げる場合だけでなく、(39) から (43) のように、N ダッターが1度だけ用いられ、次に
まとめの言葉が来る用例も観察された。(39) は「泥臭い試合をすること」の例として、「最
後まであきらめないこと」が挙げられている。(40) も、慣れていることの1つである「試
合に入っていく感じ」の例として「ロッカールームでのコミュニケーション」を挙げてい
ると考えられる。これらは、N ダッターの形で、次に述べることの例や具体的中身を挙げ
る用法である。実際の用例には、このような例が非常に多いことがわかる。

(42) は「プレッシャー」の原因の1つとして「歓声」が挙げられている。例示である
点は変わらないが、N ダッターが次に述べられていることの原因である点が (39) (40) (41)
などと異なっている。

- (39) なでしこらしさっていうのは、最後まであきらめないことであったり、泥臭い試
合をするのがなでしこです。 (サッカー選手インタビュー)
- (40) (オリンピック3回目で慣れているのではというインタビュアーの質問に応え)
ロッカールームでのコミュニケーションだったり、試合に入っていく感じはわかっ
てましたから。 (陸上選手インタビュー)
- (41) お客様だったり、人の役に立って、身近に感じてもらえるような銀行員になりた
いです。 (銀行内定者インタビュー)
- (42) 今回は初めてのオリンピックということで、その中で歓声だったりとか、プレッ
シャーで、その中で試合をするって言うのは、こう緊張したんですけど (後略) (フェ
ンシング選手インタビュー)
- (43) 例えばみんなワールドカップだったり、それぞれの目標に向かって新しい感じ
で来ていると思うんで、元気よく盛り上げて、元気よくやっ
て行ければいいかなあ

と思います。(サッカー選手インタビュー)

このうち、(39) から (42) については、1つの事態について述べているため、本来のダッタリの用法からずれた使い方となっているが、これに対して (43) は、例えば、ある人はワールドカップ、またある人は高校総体というように、人によって目標が異なるという意味になり、ダッтары本来の用法であることがわかる。ただし、1つの事態について述べている場合でも、Nダッタリのあとにまとめの言葉が来ると、そうでない場合よりも違和感が緩和されるように思われる。

Nダッтарыが1回だけ用いられて、その後にもまとめの言葉が来る用例はインターネットでも見られた。(44) は、連帯修飾節の中ではあるが、「さばさばした性格」の具体的な性質である「男勝り」という特徴がダッтарыで挙げられている。(45) a はブログのタイトルである。これだけだと、目がLEDであることと、感情表現が豊かであることがともに高機能の例であるのか、あるいは目がLEDであることが感情表現が豊かな理由であるのかははっきりしない。前者であれば (45) b のようにするとわかりやすい。ただし、本文には「新たなファービーは目の部分がLEDディスプレイになっており、従来のものよりさらに感情を豊かに表現するようだ。」という記述があるため、書き手の意図は目がLEDであるために感情表現が豊かであることを言わんとしていることがわかる。

(44) 男勝りだったりサバサバした性格の体育会系ヒロインがいる作品*

(45) a . 2012年版『ファービー』が公開！目がLEDだったり感情表現が豊かですげえ高機能だぞ*

b . 2012年版『ファービー』が公開！目がLEDだったり感情表現が豊かだったりしてすげえ高機能だぞ

c . 2012年版『ファービー』が公開！目がLEDだったりして/で感情表現が豊かですげえ高機能だぞ

とすると、この用例ではNダッтарыは後で述べることの理由を説明していることになる。cのようにNダッтарыシテまたはダッтарыデのように、シテまたはデを補ってみるとわかりやすい。このようにシテやデを伴わない場合、aのようにNダッтарыと次の部分との関係はやや曖昧になり、解釈は文脈に依存することになる。前の(42)も、前後の関係からNダッтарыの部分が後で述べることの理由であることがわかる。

以上の考察から「まとめる」というのは、Nダッтарыが次に述べることの例や具体的な内容、理由・原因などを表すということであることがわかる。

まとめの言葉ではないがNダッтарыが理由を表わすのは(46)のようにNダッтарыが複数回用いられている場合も同様である。

(46) a . 定休日だったり満席だったり…、すごく行ってみたいのになかなか行けなかった『5』さんにやっと行けました。*(再掲)

b . 定休日だったり満席だったり で/して…、すごく行ってみたいのになかなか

か行けなかった『5』さんにやっと思行けました。

前にダツタリはその後の文とかなり緩やかな関係であると述べたが、インタビューなどでは話そうとする文が事前に頭の中できちんと組み立てられている場合だけではないので、とりあえず思い浮かぶ話のキーワードとなるような主要な例を1つ挙げ、あとは、文の構造はあまり意識しなくても、内容的なつながりがあれば何となくまとまるということもダツタリがインタビューなどで多用されるもう1つの理由であると言えるだろう。

3. 2. Nダツタリで終わる形

Nを2つ以上用いたNダツタリNダツタリで終わる例示の用法は、最後のダツタリに付くスルが省略された形であるとも考えられるが、HPやブログなどのタイトルとして特によく用いられる。(47)は、そのあとに「各国ごとに」という表現があり、例示というダツタリの基本的な用法といえるが、そうでない場合でも、さまざまなトピックについて、羅列的にこの表現が用いられている場合も多い。その場合、時や状況によって異なるという意味を表すダツタリを用いることで、その時々気ままに書くというニュアンスが生ずることになる。(48)はその例である。これが、ダツタリがタイトルなどに多く用いられる理由の一つであろう。

- (47) 海外っているんな魅力がありますよね!! 景色だったり、食事だったり、人々との交流だったり…各国ごとにいろいろなライフスタイルがあつて、それぞれ違つた文化が栄えていて、とっても楽しいですよ。*
- (48) PCだったり、ネットゲだったり、犬だったり*

同じようにNトカNトカを用いたタイトルもあるが、NトカNトカのNは、例えば(49)から(53)のように同じ範疇に属することが一目瞭然の場合が多いのに対し、NダツタリNダツタリは範疇を超えた、もっとばらばらなものにも用いられている。森山(1991)はタリの列挙の用法の意味的特徴として、「具体的談話のなかで、あるセットのメンバーとして捉えられるものとしての等質性を持っていなければ、自然な並立結合は成立しない」と指摘している。森山はこの「等質性」と言うのは、意味的なもので、形態的な類似をこえたものであるとしている。実際の用例を見ると、意味的・形態的なセットの感覚はNトカの方が強く、ダツタリは(54)から(56)のように、「パリ」と「バリ」、「トレカ」と「コレカ」というような類似の音のものや「ツアー」と「そうでなかつたり」のようなNと非Nの対比も見られるが、場合によっては(57)のように動詞と名詞などの違う品詞がタリで例示されている例も少なくないなど、形態的にはかなり自由であることがわかる。また、意味的には、トカがセットとしてわかりやすいものによく用いられているのに対し、ダツタリは例えば(48)の「PC」「ネットゲ」「犬」のように、それぞれのN自体は文脈がなければ同じ範疇に属するセットとは受け取られがたい一見ばらばらなものもある。しかし、「趣味」とか「好きなもの」のように、取り上げるトピックという文脈の中で、話し手自身がそれらをセットとしてとらえてさえいれば、かなり自由にダツタリを用いることができる

ことになる。

- (49) “知財とか渉外とか特許とか” *
- (50) 人とか機械とか*
- (51) 山とか川とか*
- (52) 玩具とか模型とか*
- (53) 罪とか罰とか*
- (54) パリだったりパリだったり*
- (55) トレカだったりコレカだったり*
- (56) ツアーだったりそうでなかったり*
- (57) 祭りに行ったり、浴衣だったり*

このように、品詞や通常の範疇意識にこだわらず、思いつくままに羅列し、その広がり
を示す場合にダッターが多く用いられている点は注目に値する。時や状況に応じて異なる
ものが存在することを表すというダッター本来の用法の拡張とも言えるが、その組み合わ
せが奇抜であればあるほど目を引きやすいことがブログ等のタイトルに多用されるもう1つ
の理由であろう。

3. 3. NダッターNダッタリスル

NダッターNダッタリスルには「例示」・「不定」・「繰り返し」の用法があるとされ、イ
ンターネットでもよく見られる。例えば、(58)は「例示」の例であるが、Nヤを用いたb
が、例を挙げることで、ある程度範囲が決まっているものの全体像を明確にしようとする
網羅的なニュアンスを持つのに対し、Nダッターを用いたaは、網羅するというよりは、
可能性の広がりを示しているという違いが感じられる。前項でも述べたとおり、この点が
NヤとNダッターの大きな違いの1つである。

- (58) a. アンソロジー「ことばの断片」とは
ことばの断片。それは詩集の中の一篇だったり、歌の詞だったり、童話の一
節だったり、ときに日記や手紙のきれはしだったりするかもしれません。今
の人の、もう死んだ人の、詩人の、部族伝承の、北欧の国からの、ハワイの
島々からの、日本やアメリカの、古代ギリシアの、アイヌや北米インディ
アンやクレオールの…。時間や空間をこえて、いま生きているわたしたちに響
くことばの断片を集めます。
- b. それは詩集の中の一篇や、歌の詞や、童話の一節や、ときに日記や手紙のき
れはしなどかもしれません。

さらに、本来の「例示」、「不定」、「繰り返し」いずれの用法とも異なる(59)のような
用例もあった。これは、インターネットの質問コーナーでのつぶやきのルールについての
質問である。一番目のNと二番目のNは「OK」と「NG」という反対の意味を表す名詞が

用いられている。これは、一見「反復」・「繰り返し」を表すように見える。しかし、(59)は、条件・場合によって変わるというよりは、だめなものとしてグループに分け、その基準を聞いているのであり、(59')のように、同じものがどういう場合にOKになったりNGになったりするのかわかっているわけではない。(60)も「美人」とそうでない議員をグループに分ける表現となる。また、(61)はこのダッタリスルのスルが省略された形であるが、これも同じ相談が場合によって無料になったり有料になったりするわけではない。それ故、これらを「不定」や「繰り返し」として扱うことはできない。

- (59) a. 具体的に、どんなつぶやきがルール上 OK だったり NG だったりするのでしょうか*
b. 同じつぶやきが、どういう場合に OK だったり、NG だったりするのでしょうか。
c. どういうつぶやきがOKで、どういうつぶやきがNGになるのでしょうか。
(60) 適度に美人だったり美人未満だったり不美人すぎたりする議員さんたちはどうしてこのことを問題にしないんだ?*
(61) a. 相談は無料だったり有料だったり*
b. こういう相談は無料で、こういう相談は有料だ

本稿ではこのような用法をグループ分けと仮称することにする。「不定」と「繰り返し」の両方の性質を併せ持っていると言えるが、これらの用法がどのぐらい一般的であるかは今後さらに詳しい検討が必要である。

3. 4. Nダッタリスル

Nダッタリスルは「暗示」・「ぼかし」の意味を表すとされる。例えば(62)は暗示の用法である。

- (62) しかし、ちょっと成績がいい程度のことでは無い上がったりしない。(再掲)

これは文中では(63)・(64)のように、ダッタリシテの形で用いられる。

- (63) さっきは、しんのすけにどなったりして、悪い父親だ。(再掲)
(64) 何度か行ったのですが定休日だったりしてなかなか食べることができませんでした。5度目の訪問にしてやっと食べることができました。*

また木下(2006)は、前述の通りタリスルの聞き手の想定が及んでいない可能性に言及することを表す機能について述べている。

しかし、例えば(65)は、「聞き手の想定が及んでいない」というよりは、他にもあるかもしれないが、意外に重要な原因が「こんなこと」だと述べている例であり、一義的には他の可能性があることを示す「暗示」の用法となっていると思われる。(66)から(70)も、

他にも可能性があることを示すことにより、話し手が自信がない場合や断定的に言うとき相手に傷つける可能性がある場合、言いにくいことなどに、断定を避けてぼかして言う用法ともなりうる。この場合(66)(68)のように「だったりする(の)かな?」や(69)「だったりする?」のように疑問文になることもある。その際には「もしかして」「ひょっとしたら」のような表現を伴うことも多い。

- (65) こんなことが売れない原因だったりする*
 (66) それはそうと、昔読んだことがあるなんかの短編集(複数の作家の作品を集めたやつ)で勝海舟がヘボ推理を披露する作品があった気がするんだが、もしかして原案のシリーズ作品だったりするのかな。*
 (67) ファン太郎ってもしかして朝青龍だったりする?*
 (68) お兄ちゃん、お兄ちゃんが好きな女の人、もしかしてあたしの知ってる人だったりするかな*
 (69) エティハド航空って…もしかしてスケジュール管理がイマイチだったりします? それとも…?*
 (70) 今、生協の宅配をやっているんですけど、私の地域の担当の方は、結構イケメンくんでして、私の好みだったりするんです*

しかし、中には単なる曖昧・ぼかし表現というだけでは説明できない(71)から(75)のような用法も見られる。これらは、内容的には特に相手に傷つけるようなものではなく、特別な対人的配慮が必要なことがらではないし、話し手自身が内容に自信がないわけではない。

- (71) 実はお勧めが手作りカレーだったりする*
 (72) 職場はオペラハウスだったり*
 (73) これでも受験生だったりする*
 (74) 意外とこれが初一蘭だったりする*。
 (75) いや、これでもラグビー部で「フランカー」だったりするんだよ。

これらは「実は」「結構」「意外と／に」「これでも」のような表現を伴って用いられる場合も多い。これらの用法について大和(2008)は下の(76)aからdの例を挙げ、タリスルは想定通りの当たり前の事態ではなく、話者の想定から外れた有標の事態を表すとする(下線、筆者)。大和によれば、これは、複数の事態を並列的に結合するというタリの基本的な意味から派生的に生じた用法であり、有標の事態をタリによって明示し、対照的な無標の事態を暗示することから意外性が生じると分析する。

- (76) a. 料理の得意な花子は、卵焼きがうまく作れなかったりする。(例文は大和。下線は筆者)
 b. 料理の苦手な花子は、卵焼きがうまく作れたりする。(同上)

- c. ?料理の得意な花子は、卵焼きがうまく作れたりする。(同上)
- d. ?料理の苦手な花子は、卵焼きがうまく作れなかったりする。^{註3} (同上)

そして、(77) のように依頼の場面でダッタリスルを用いるのは、無標の事態を、有標の事態のように示すことで、依頼を受け入れてもらうことを当たり前とは思っていないことを示すことにより、聞き手の行為の自由度を侵害されたくないという欲求、即ち相手のネガティブフェイス^{註4}に対する配慮を示すとともに、断られることをある程度覚悟していることを伝えることにより、他人に認められたい、受け入れられたいという欲求、即ち自己のポジティブフェイス^{註4}の侵害も軽減できると大和は説明する。

(77) 参考文献を教えてもらえたりしたら嬉しいな。(例文は大和。下線は筆者)

また、依頼以外の文脈でも (78) のように、有標のタリを用いて自分にとっては自明なことでも、相手にとっては当たり前ではないことを示すことにより、押しつけがましさを避け、相手のネガティブフェイスに配慮するとともに、自己のポジティブフェイスに配慮した表現になっているとする。

(78) ちなみに今日は私の誕生日だったりします。プレゼントやメールをくれた方々、
どうも有り難うございます。(同上)

しかし、大和の「話者の想定から外れた有標の事態」と「自分にとっては自明なことでも、相手にとっては当たり前ではないことを示す」という説明は、それが誰の想定外であるのか、誰にとって有標の事態であるのかに関し正反対のことを述べているように思われる。むしろ、社会通念からして、意外、あるいは可能性が低いと思われる有標の事態と捉えるのが適当であろう。

このようなダッタリスルは、社会通念上ほかの可能性もありそうに見えたり、可能性が低いことのように思われたりするかもしれないが、実は、意外にこうなんですよというような意味を表すように思われる。例えば (72) は、オペラハウスというのはオペラなどのショーを見に行くところと聞き手は思うだろうが、実は話し手の場合、職場なんですよといったところである。これは、可能性が低い事態を述べるダッタリスルから派生した用法であると思われるが、意外だと感じる可能性があるのは話し手ではなく、聞き手である。それ故、話者の想定から外れた有標の事態であるとは言えない。これも、社会通念から見て有標である事態と考えればうまく説明ができる。

それではなぜ、このような表現が用いられるのであろうか。これらは述べられていることがらについて聞き手がおそらくそのように感じるであろうと話し手が聞き手の気持ちを先取りし、それに寄り添いつつ情報を提供する言い方となる。一方 (71') から (75') のようにダッタリを取ると、聞き手の気持ちには無頓着に、一方的に情報を提供する表現となる。

- (71') 実はお勧めが手作りカレーだ。
 (72') 職場はオペラハウスだ。
 (73') これでも受験生だ。
 (74') 意外とこれが初一蘭だ。
 (75') いや、これでもラグビー部で「フランカー」だよ。

同様に (79) から (84) も、話者の想定から外れた有標の事態というよりは、社会通念上意外、あるいは可能性が低い事態で、そうなったのがたまたまであるという意味を表す。

(79) から (82) は特に对人的配慮を必要とする状況ではないので仮に断定的に述べても特に問題はないが、(83) のような場合には、今日は凶らずも自分の誕生日であるが、たまたまそうなだけで、そうであれば聞き手は知らなくても当たり前であることを示しつつさらっと情報を提示する言い方となる。

また、(84) も身体的特性のようなプライベートなことに関して断定的な聞き方をすると、聞き手の領域にずかずかと踏み込んだ失礼な言い方であると受け取られる可能性がある。

- (79) 一人暮らしの時から使ってる、輸入物の“丸テーブル”。脚の色はこれまた、偶然、グリーンだったりするんだけどね…??*
 (80) 例えばそれがたまたまソフトボールだったりする訳で。*
 (81) そのイカレてた彼女が今の自分の彼女だったりする*
 (82) (風邪薬の成分に聞いたことのないカタカナがあってよくわからないことの説明。思わぬ偶然が奇跡を呼ぶ) それらの材料は、カビや細菌などのいろいろな微生物が作り出す物質や、それらに似せて人工的に合成した化合物だったりするんだよ。
 (83) 実は今日誕生日だったりする*
 (84) もしかして左利きだったりしますか？お箸の位置が左手っぽいので…。*

(83') (84') のように、ダツタリのない表現と比較すると、その違いは明白である。

(83') 実は今日誕生日だ

(84') もしかして左利きですか？お箸の位置が左手っぽいので…。

これらは、英語で言えば happen to に似た用法であるかもしれない。ちなみに、この happen to は (85) (86) のように、Do / Did you happen to... ? の形で遠回しな依頼や遠慮がちな質問に用いられるとされる。

- (85) Do you happen to have time right now?
 (86) Do you happen to speak French?

(87) から (89) のように、いつもではないが、そういう場合もあるという意味で用いられ、別の可能性も示唆する用法もある。複数の可能性があることから、(89) のようにダツ

タリモスルになる例も見られた。

(87) 「頑張らない」という自然体が上手くいく方法だったりする。*

(88) ゲームの没曲が意外な名曲だったりするよな：アルファルファモザイクだった*

(89) 一番楽しいのは休暇の前夜だったりもする。*

(90) についても、相手の意思や善意を問題にするのではなく、いくつかの他の選択肢もある中で、たまたま今状況的にそれが可能かどうかを問い、相手に断る余地を用意しておくことで、相手に対する配慮を表す表現となる。これは同時に、断られた場合にも、それは相手の意思によるものではなく、たまたまその時の状況で不可能なだけであるから、それほど傷つかずにすむということにもなる。

(90) 明日お休みだったりしたら、ちょっと手伝ってもらえるかな？

話し手がそれを望ましくない事態であると捉えている場合にはいくつかの可能性、選択肢がある中で、なぜわざわざそれを選択したのかという意外性、時には非難のニュアンスを帯びることもある。

(91) ガンダムって何で白色だったりするの？目立つじゃん*

(92) けっこう意外？な日本選手が、UFCの参戦候補だったりする話*

このように考えると、「ぼかし」と言われているものの中にもいろいろな用法があることがわかる。ただし、いずれも「いくつかの可能性の中の1つ」「他にも可能性もある」というダツタリ本来の意味から生じた用法であると言える。また、ダツタリスルは(93)(94)のように、カモシレナイなどを伴って「冗談」としても用いられる。

(93) マイケルはモーツァルトの再来??!!だったりするかもしれない*

(94) 案外、日本の政治を変えるのはニコニコ動画だったりするのかも知れないと思ったりして*

3. 5. Nダツタリシテ

極端な異常事態を例示・想定し、事態を部分的な例示として取り上げて、「冗談」として用いられるとされるのがこのNダツタリシテである。例えば(95)はその例である。

(95) まだパジャマだったりして*

一方、(96)から(100)のように、言いにくいことや自信のないこと、また、時には、自慢とも受け取れることや真面目すぎることをからかい半分や冗談めかして述べることで、断定的な言い方をした場合に起こりうる責任や非難を回避したり、相手の反応を探っ

たり、相手に判断を委ねたりする用法も見られた。

- (96) 宿題溜まり放題だったりして*
- (97) 田中一郎/リサーチャーだったりして*
- (98) 上ホルモン焼：もしかして元祖だったりして?*
- (99) たくさんの靴に夢中になるのは、実はお客様よりもスタッフだったりして!?(笑)
(靴店の定員募集)*
- (100) 苦手が実は才能だったりして 全てに言える事ではないと思いますが、そんな事もあるかもしれないと、さらっと読み流して下さい。*

森山は冗談である以上、「たりした」ではなく、非実現（テンスとしては未実現）のこととして言わなければならないと述べているが、実際の用例では(101)のように、ダッタリシテで、既に実現している事態について述べる用法もあった。

- (101) これが決めてだったりして。* (中華料理屋で、フォーチュン・クッキーで次の行き先を決めた)
- (102) 勉強、食事、睡眠、自由時間ー。円グラフに絶対不可能な計画を書き込んだ夏休みの学習帳を思い出しますね。1日目の夜更かしでいきなりアウトだったりして…。*

ただし、(102)は過去の回想として、後から前に述べたことの情報に補うような場面で用いられており、これらは普通のダッタリスルやダッタリシタを言い切らない形にしたダッタリシテであると考えられる。この場合は冗談の意味にはならない。

4. まとめ

「ぼかし」というのは断定を避けることであるが、自信がないことや言いにくいこと、相手が知らないことなどを言う場合などに用いられる。言いにくいことにはよくない事態、行為要求、非難、自慢などがある。ダッタリスルが担いうる「ぼかし」というこれらの機能はすべて、他の可能性がある、いろいろな可能性の中の1つということから生ずる、可能性があまり高くないという意味と関わっていることがわかる。それにより、間違えた場合の責めや恥ずかしさを回避したり、自慢したり相手に強制したり非難したりすることで生ずる対人関係のトラブルも緩和することができるわけである。また、「冗談」にしても、冗談めかして述べることで断定を避け、責任を回避したり、対人的な摩擦を緩和したりする手段ともなり得る。

ダッタリの本来の機能は「例示」であり、挙げられた事態意外にも可能性があることを示唆する。そこから、「例示」以外に「不定」・「繰り返し」の他、他にもいろいろな可能性があることから、可能性が低い事態、偶然起こった事態、あるいは相手が意外だと考える事態など、社会通念上有標な事態を表し、それが、「ぼかし」や「冗談」の用法につながっていることになる。

また、ダッタリスルにならない例として日比(2009)では、いくつかの例を挙げた後、

それをまとめる内容が続く場合などが挙げられているが、その他にも、以下のような場合にもNダツタリスルにならないことがわかった。

- ア. ダツタリが助詞等を伴って文の構成要素になっている場合
- イ. 修飾句／節として用いられる場合
- ウ. ダツタリトのように、トを伴って次に述べることの例や様子を具体的に示す場合
- エ. Nダツタリが1度だけ用いられて、次にまとめの言葉がくる場合

実際の用例では、日比の言ういくつかの例を挙げる場合だけでなく、このようにNダツタリを1度だけ用いてその後それをまとめる内容が続く場合が非常に多いこともわかった。この、「まとめる」というのは、Nダツタリが次の部分の例や具体的な内容、理由・原因などを表すということであることが明らかになった。また、2つ以上の例を挙げる場合に、Nダツタリを1度だけ用い、あとは名詞プラス助詞などで文を続けていく例も少数ではあるが観察された。

さらに、状態性のダツタリの場合に、1つの事態ではなく、複数の事態について、時や条件によって異なることを表すという機能が顕在化されることから、本来であれば1つの事態を表す場合にNダツタリは不適格ということになるが、実際の用例ではこのような用法は決して少なくないこともわかった。適否の判断は分かれるところであるが、特にNダツタリの後にまとめの表現がある場合には、そうでない場合に比べて的確性が増すように思われる。

また、実際の用例の中に同じものが条件・場合によって変わるというよりは、ある場合とそうでない場合のグループを表す、本稿では「グループ分け」と仮称する用法が少数ながら見られた。これらは「不定」と「繰り返し」が混ざった用法であると言えるが、どの程度一般的なのかは今後の調査が必要である。

ダツタリが用いられる状況としては、話し言葉では、ごく普通の会話と言うよりはインタビューなどのやや改まった場面で多く観察された。1つにはNヤはやや堅すぎる印象、Nトカはくだけすぎた印象があり、その中間としてNダツタリが適度な改まり感を感じさせる表現と受け止められこと、Nヤだと、複数の例を挙げる必要があるが、NダツタリはNが1つだけでも用いることができるし、その後の文とかなり緩やかな関係であることから、インタビューなどでとりあえずキーワードとなるような例を1つ挙げ、あとはそれと内容的なまとまりのあることを話すときに使いやすいことなどが、この表現が多用される理由であると思われる。

また、書き言葉ではブログなどのタイトルとして多用されているが、これは、そのときそのときの状況に応じてという意味を表すダツタリを用いることで、その時々を思いをそのままに書くというニュアンスが生ずること、品詞や通常の範疇意識にこだわらず、思いつくままに羅列することが可能であること、さらには、その組み合わせが奇抜であればあるほど目を引きやすいこと等が、その理由であると考えられる。また、ある程度範囲が決まっているものの全体像を明確にしようとする網羅的なニュアンスを持つNヤN(ナド)と異なり、網羅するというよりは、可能性の広がりを示しているという違いが感じられるとい

う効果もあることが明らかになった。

さらに、ダツタリが「ぼかし」の意味を表すのは、他の可能性がある、いろいろな可能性の中の1つということから生ずる、可能性があまり高くないという意味と関わっていることがわかった。それにより、間違えた場合の責めや恥ずかしさを回避したり、自慢したり相手に強制したり非難したりすることで生ずる対人関係のトラブルも緩和することができることになる。「冗談」についても同様である。

以上の考察をまとめたのが、表2である。

表2

用法名	形式例	意味	特徴
例示・不定	<ul style="list-style-type: none"> ・～ダツタリ～ダツタリスル ・～ダツタリスル ・～ダツタリ、… ・～ダツタリ ・ダツタリ～ダツタリ+助詞 ・～ダツタリ～ダツタリ、… ・～ダツタリ～ダツタリ+まとめの言葉 ・～ダツタリ+まとめの言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの具体的事態を例として取り上げる。 ・ある一つの事態またはさまざまな事態が、時や状況によってさまざまに異なることを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他にも可能性があることを表す ・場合によって異なることを表す ・他にも可能性があることが暗示されることから、可能性の広がりを示す
繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> ・～ダツタリ～ダツタリスル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある状況が繰り返されることを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場合によって異なることを表す
グループ分け	<ul style="list-style-type: none"> ・～ダツタリ～ダツタリスル ・～ダツタリ、～ダツタリ 	<ul style="list-style-type: none"> ・あるものが、いくつかのグループに分けられることを表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴・性質などが異なるものがあることを表す。
暗示	<ul style="list-style-type: none"> ・～ダツタリスル 	<ul style="list-style-type: none"> ・同類の事態を暗示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他にも可能性があることを表す
ぼかし	<ul style="list-style-type: none"> ・～ダツタリスル 	<ul style="list-style-type: none"> ・明言を避けたり、冗談めかして言ったりすることで、対人関係上のリスクを回避する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他にも可能性があることを表す ↓ ・いろいろな可能性の中の1つである
冗談	<ul style="list-style-type: none"> ・～ダツタリシテ ・ダツタリスルカモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・極端な事態を取り上げて冗談の意を表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能性が高くない ・たまたまそうである ・意外

5. おわりに

ダツタリの本来の機能は「例示」であり、挙げられた事態意外にも可能性があることを示唆する。そこから、「例示」以外に「不定」・「繰り返し」の他、他にもいろいろな可能性があるということから、可能性が低い事態、偶然起こった事態、あるいは相手はその事態を意外だと考える事態など、社会通念上有標な事態を表し、それが、「ぼかし」や「冗談」の用法につながっていることが明らかになった。このように様々なダツタリの用法は全て、例示を表すダツタリがもつ本来の文法的な意味から派生していることがわかる。

また、実際の用例を見ると、これまで指摘されていなかった用法として、N ダツタリを1度だけ用いてその後にそれをまとめる内容が続く例や1つの事態を表すN ダツタリが多く観察された。これらは、若い世代を中心に広がっているように思われる。少数ではあったが、「グループ分け」と仮称する用法も見られた。今後はこれらの用法がどのような状況で用いられ、どのように評価されているのか調査していく必要がある。

さらに、本稿では名詞を用いたN ダツタリを考察したが、そこで見られた用法が、他の品詞を用いたタリ全般に当てはまるのかも今後の課題である。

いずれにしても、「例示」を本来の用法とするタリは、対立や自己主張を避けようとする現代の若者にとって非常に便利な表現であることは間違いない。今後もその動向を見守って行きたい。

【注】

- 1) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』の略。以下同じ。
- 2) 本稿で用いた*は全て、インターネット検索サイト Google から採取した用例であることを表す。下線は筆者。
- 3) この文は意外性の用法という意味では不適切ではあるが、「卵焼きがうまく作れない」というマイナスの事態を断定的ではなくぼかして言う場合には的確な文となるであろう。
- 4) 「ネガティブフェイス」「ポジティブフェイス」は Brown & Levinson (1987) の用語であるが、本稿では Politeness 理論には立ち入らないこととする。

【参考文献】

- 木下りか (2006) 『第4回日本語教育研究集会予稿集』 日本語教育研究集会実行委員会
金水敏・工藤真由美・沼田善子編 (2000) 『時・否定と取り立て』 岩波書店
グループジャマイ編 (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版
寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』 くろしお出版
日比伊奈穂 (2009) 「「たり」の用法に関する一考察」『大阪大学日本語日本文化教育センター
授業研究』 第7号
森田良行 (1989) 『基礎百本語辞典』 角川書店
——— (2007) 『助詞・助動調の辞典』 東京堂出版
森山卓郎 (1995) 「並列述語構文考—「たり」「とか」「か」「なり」の意味・用法をめぐって—」(仁田義雄編『複文の研究(上)』) くろしお出版
——— (1997) 「『うどんにマヨネーズかけたりして』—並立の意味」『言語』26-2
大和啓子 (2008) 「「タリ(スル)」の意外性と配慮効果 依頼文脈における使用を中心に」
『筑波応用言語研究』 第15号
ルチラ パリハワダナ (2002) 「「(～たり,) ～たりする」文の意味・用法について」『金沢
大学留学生センター紀要』 第5号: 1-24
Brown, P. & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*:
Cambridge University Press.

The Usage of N-*dattari*

KUMAI, Hiroko

In this paper, the author discusses the usage of *tari*, an expression of exemplification, focusing on N-*dattari* using a noun, based on various examples from actual language use. As a result, the case where some content follows which summarizes the N accompanied with *dattari* is often observed, particularly when N-*dattari* appears only once. In addition, N-*dattari* is often used where *ya* or *toka* is generally more appropriate. There is also another usage tentatively called “grouping” in this paper, which is different from the original usage of *dattari*. The situation where N-*dattari* is used without being accompanied by *shita* is also investigated. Furthermore, the reasons why this expression is preferred in situations like interviews and blogs are also considered. Finally, why *dattari* can be used as an expression of vagueness and jokes is discussed.